

ソ連の新聞天気欄*

森 広 道**

これまでにソ連で入手した9紙の新聞天気欄を中心に、その内容の一部を示し、予測精度等についても若干紹介する（このうち4紙には天気欄はなかった）。

1. はじめに

日本の約60倍という面積を持つソ連の気候は複雑であるが、全般的な特徴としては大陸性気候のため昼夜の気温差が大きく、雨天の日の冷え込みが厳しいことをあげることができる。一方、最近のソ連国内あるいは国際情勢に対応するかのように新聞天気欄も少しずつ様相を変えてきている。

ここで紹介する5紙の新聞天気欄は全てソ連水文気象センター発表のものであるが、新聞によって若干掲載内容は異なる。各共和国・自治州等ではそれぞれ独自の、もう少し細かい新聞天気欄が掲載されているのかもしれないが、その辺りのことは今のところ不明である。

2. 短期予報

2.1. ブラウダ（真実という意味）

ソ連共産党機関紙“ブラウダ”は6面で構成されており、このうち天気欄は6面下欄に掲載されていた。僅か数行から成る全文は『1987年4月30日、モスクワとモスクワ州では降水はなく、風は南西 3~7 m/s, 日中は14~19°C, 5月1日と2日も降水はない。日中は暖かく16~19°C, 夜間は4~9°C。』という内容であった。

なお、天気図類はなく、現在も少なくとも8年前と同じ掲載スタイルが続いている。

2.2. イズベスチャ（報道という意味）

ソ連最高会議幹部会機関紙“イズベスチャ”は、“ブラウダ”同様に6面で構成されていた。このうち天気欄は6面下欄にあり、その内容は第1図にあるように翌日の地上予想天気図（時間は不明）と約30行にわたって書かれた全般天気概況・モスクワとモスクワ州の予報（“ブラウダ”に同じ）であった。

『バレンツ海から移動してきた低気圧は、降雪と風速20 m/sの吹雪を伴っていたが、ヨーロッパロシアの北部で衰弱しつつある。明日には、降雪と吹雪はアルハンゲルスク州・コミ自治共和国へ移り、ウラルまで広がる。ヨーロッパロシアの中央部では弱い降雪がある（1990年11月13日発売）。』

（後略）

昨年12月20日をもって突然第1図の地上予想天気図は掲載されなくなり、全般天気概況も縮小され今日に至っている。

2.3. セーリスカヤ・ジーズン（農民生活という意味）

4面で構成されており、農家にとって必要な気象情報も割合詳しく掲載されていた。天気欄は4面下欄にあり、天気概況の分量は“イズベスチャ”の2~3倍である。第2図には1987年4月29日発売の新聞より、地上予想天気図を示す。

『中央アジアとアゼルバイジャン地方の綿花を栽培する地域の大半では、大衆による綿の種蒔が続けられているが、長雨のために種子の発芽の状態は良くない。カザフ地方には寒気が入り、日中の気温は平年より5~8°C低くなった。』

（後略）

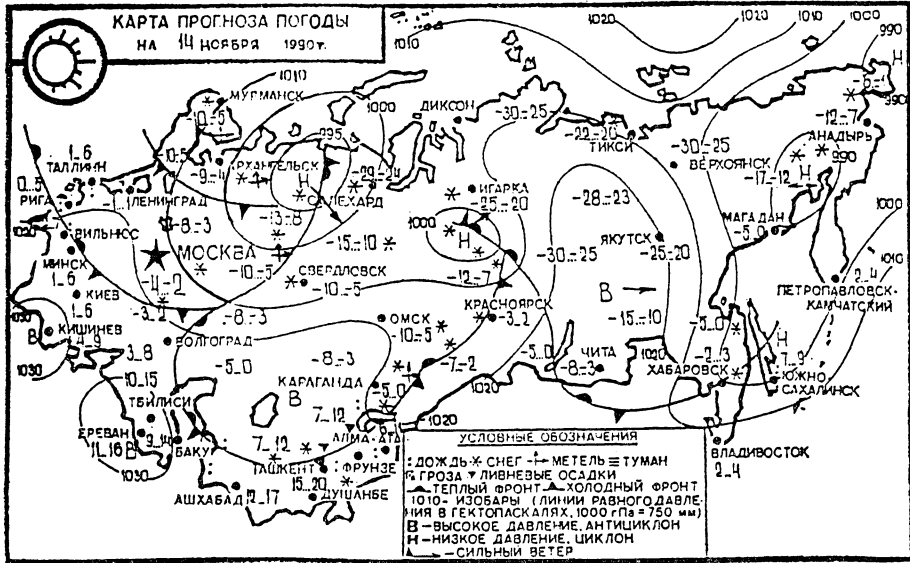
第3図には最近の1991年2月14日発売の同新聞より、地上予想天気図を示す。第2図と比較すると、ウクライナ地方から北カフカース地方のソ連の穀倉地帯を中心とした地域から、ソ連全土に掲載地域が変わっていることがわかる。この新聞により、ソ連全体の積雪・降雪・干ばつの状況等の全体像が把握できる。

2.4. レーニンスコエ・ズナミヤ（レーニンの旗という意味）

軍関係のこの新聞は4面で構成され、天気欄は4面下欄にあった。“ブラウダ”と天気欄の内容はほぼ一緒で、モスクワとモスクワ州の天気予報が今日から明後日まで

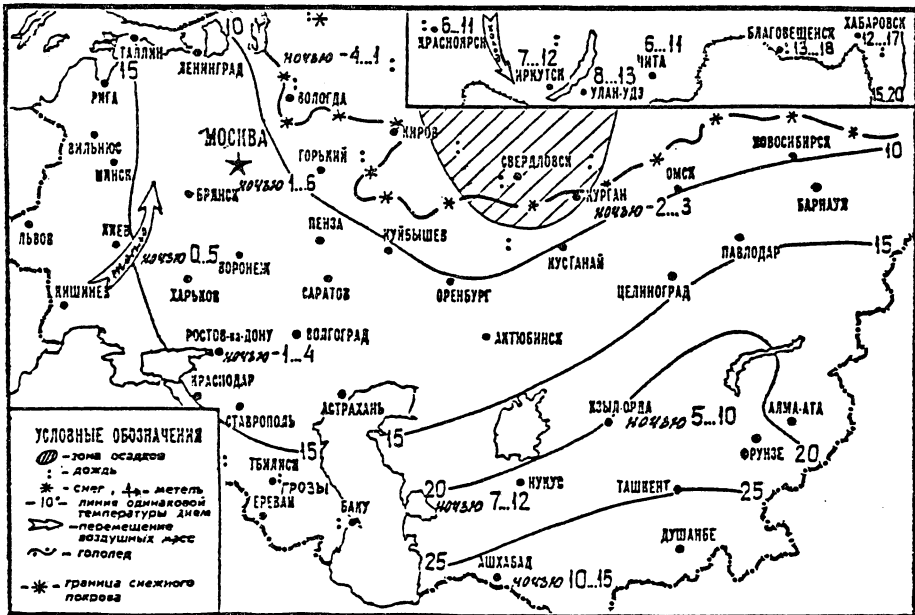
* Weather forecasts in newspapers in USSR.

** Hiromichi Mori, 大阪管区気象台技術部予報課。



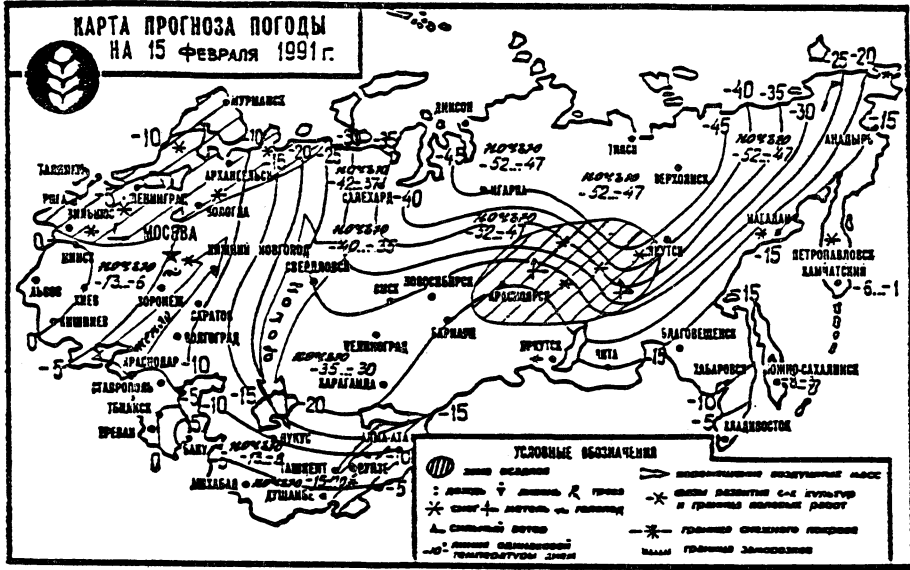
第1図 1990年11月14日の地上予想図。

等圧線は 10 mb 毎に、低気圧の中心は 5 mb 毎で描かれている。図中の数字は、日中の気温で 5°C の幅で予想されている。馴染みのない天気図記号としては、●：雨，B：高気圧，H：低気圧，↖：強風



第2図 1987年4月30日の地上予想図。

●：降雨域，●：雨，*：雪，↖：吹雪，—10°—：日中の等温線，☉霜氷，⇌：空気塊の移動，—*—：降雪の境界



第3図 1991年2月15日の地上予想図。
第2図以外の記号としては、☁ : 降霜の境界

掲載されていた。ただ、日の出と日の入りの時刻が掲載されていたことが僅かに前者と異なる。天気図類はなし。

2.5. ソビエツカヤ・ロシア (ロシア・ソビエト (評議会) という意味)

4面で構成されており、天気欄は4面下欄にあった。天気欄の内容は“ブラウダ”等にはほぼ一緒である。異なるのは、モスクワ以外の地方予報が掲載されていたこと。天気図類はなし。

『レニングラードでは日中 16~18°C, 所によって 13~18°C. ムルマンスク地方では 2~7°C. (1987年4月30日発売)』

(後略)

3. 週間予報

毎週土曜日には、新聞により掲載地域は異なるがソ連邦を8~25の主要都市・地域に分割したときの、それぞれの地域における向こう一週間の全般的な天気予報が掲載されていた。

『レニングラードでは期間まとまった降水はなく、気温は夜間は 4~9°C, 日中は 12~17°C. 週の中頃の2日間は小量の雨があり、気温も 2~5°C 下がる (1987年5月3日発売の“ブラウダ”より)』

1991年10月

(後略)

4. 1カ月予報

“セーリスカヤ・シーズン”より1ヶ月予報を示す。これによると、ソ連邦を8地域に分割したときの気温に重点を置いた予報となっていた。前半は1ヶ月をとおしたソ連邦全体の全般天気概況を、後半は8地域(ヨーロッパ・ウラル中部と南部・外コーカサス・シベリア西部・カフカス・アジア中央部・シベリア東部・極東)の予報が掲載されていた。

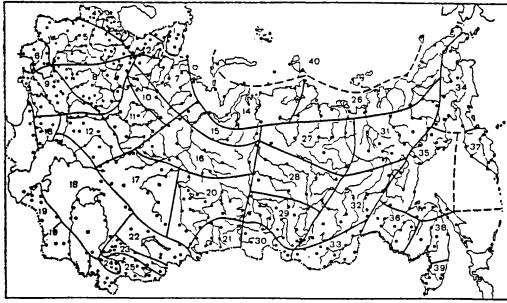
『シベリア東部の2月は1ヶ月をとおして厳寒。南部では平年並で、-16~-21°Cとなり、いくぶん暖かい。北部では平年よりも1~2°C低く、-26~-31°C. 2月上旬の平均気温は平年よりも2~5°C高い。(1991年2月1日発売)』

(後略)

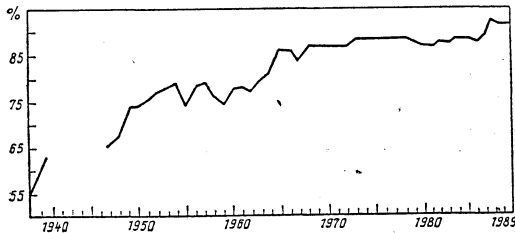
5. 予報業務について

新聞天気図欄の紹介に関連して、ソ連における予測精度等についてごく簡単に紹介しておく。

ソ連において重大な災害をもたらす気象現象(水文現象は除く)とその発生基準は、強風(25 m/s 以上)・大雨(12時間で 50 mm 以上)・大雪(12時間で 20 mm 以



第4図 ソ連における予報区分.



第5図 モスクワにおける今日予報の予測精度.

上)・ヒョウ(直径20mm以上)・高温(35°C以上)・低温(-40°C以下)・濃霧(100m以下)・砂嵐(15m/s以上の風速を伴う)・スノーベイ(気温25°C以上, 風速5m/s以上, 相対湿度30%以下の日が3~5日継続する)・霜・たつまき等がある。

これらの現象が各共和国・州・地方において予想されたとき, テレビ・ラジオ等のマスコミと政府機関・経済組織に伝達される。

マスコミ等に伝達されるまでには, まず, ①全連邦のセンターであるソ連水文気象センター(日本では気象庁本庁に対応)が, 半球水文学モデル等によって向こう36時間先までの全国におけるこれらの現象の発生地域ポテンシャルを示し, 次に, ②各共和国にある地方予報センター(日本では管区气象台に対応)が, 地域予報モデル等によって向こう24時間先までの共和国における発生ポテンシャルを示す。最後に, ③各地方予報センターにある第一線の予報センター(日本では地方气象台に対応)が, 人工衛星“ゼムリヤ”・レーダー・地上観測等による実況値を把握することによって, より正確な予報を発表する, というシステムになっている。

第4図には, ソ連国内を39に分割したときの地域予報

区分を示す。実際に国民に伝達されるまでには, さらに小区分された予報区になっているもようである。

予測精度の評価については, ソ連国家水文気象委員会が管理している。最近(1989年度)発表されたデータによると, 今日予報の予測精度は88~90%であり, 明日予報は85~88%, 3~5日子報は83~85%, 長期予報(1ヶ月予報)については65~70%となっている。

第5図には, 1936年から1989年までのモスクワにおける今日予報の予測精度を示す。1946~1953年, 1962~1965年, 1967年, 1985~1987年に予測精度の向上がみられる。

1946~1953年は, 第2次大戦中気象観測網・高層観測網が増強されたことによる。1962~1965年は, コンピューターの新機種導入による水文気象モデルの改良による。また, 1967年は, 気象専用人工衛星“ゼムリヤ”導入による新しい観測・情報システムの完成による。1985~1987年は, 新世代の水文学モデルの出現によりそれぞれ予測精度が上がった。と述べられている。

6. おわりに

ソ連水文気象センターでは, 向こう5日間の気温と降水量・10日間の気温分布・月平均および季節平均の気温と降水量の偏差・貯水池と河川の結氷と解氷の予報・海上水文予報等さまざまな種類の予報が作成されている。

近年ますます大きな意義を持つようになってきているのは, 農業気象条件——作付地の湿潤度・秋まき小麦の越冬状況・春用作物の育成状況等についての情報である。

このように, ソ連においてもさまざまな予報が作成されているようであるが, 一般の国民が知る天気予報は“ブラウダ”にみられる内容に限られているように思われる。そのようななかにあつて, “セーリスカヤ・ジーズン”の記事は興味深い。そこには, 私達にはあまり知られていない生活の一端を, 天気欄を通して知る喜びがある。

参考文献

- A.A. Васильев 1991: Гидрометеорологические явления, приводящие к стихийным бедствиям, и система их прогнозирования, МЕТЕОРОЛОГИЯ И ГИДРОЛОГИЯ, No. 1, 5-15.
森 広道, 1989: ソ連の気象業務について, 技術情報, 64, 34-38.